

2年 国語科研究授業のまとめ（6月4日）

1 単元名及び単元の目標

ふろしきは、どんなぬの（4／12本時）

- ◎ カードと本の文章という二つの文章を読み比べ、それぞれの説明の違いに気付く。

2 本研究授業の提案について

二つの文章を読み比べて説明の違いに気付かせるために、以下の二つについて提案を行った。

- (1) 二つの文章を比べて読むために、本文を上下に並列したプリントを準備したり、ワークシートや付箋を活用したりした（資料1参照）。子供たちは前時までに本文を音読したり視写したりして読み込んでいたため、プリントを活用して印を付けたり線を引いたりする様子はあまり見られず、すぐに付箋に違いを書く児童が多かった。新たな気づきを促す上では、全体及び机間指導でもう一度本文に戻って考えさせることも必要であったと考える。また、気づきを書きやすく、次時でワークシートの内容をまとめたり貼る位置を移動したりすることを考え、欄に合わせた付箋を準備した。それにより、児童はワークシートのどこに書いたらよいか迷わずに気付いたことから付箋に書くことができた。違いを項目としてまとめられず「カードは…」「本は…」などと具体で書かれていた場合には机間指導で付箋を移動させるなど個別に支援することもできた。終末の段階では、学習したことを個人でまとめる活動を行った。しかし、付箋に書いた内容をもう一度吟味して、「カードの文は短い」「本の文は長い」と書いていた場合にはまとめると何が違うと言えるのか再考させることもできたのではないかと考える。

- (2) 読み取ったり気付いたりしたことを交流する展開を授業の中に位置付け、多様な見方ができることに気付かせるようにした。はじめに、ペア学習で互いの考えを出し合い、その後、全体の前で発表する学習場面を設けた。ペア学習では、ワークシートを見せ合いながら互いの共通点や相違点について意見交換をすることができた。その後の全体発表では意図的指名を行い、文の長さや文の数、題名、箇条書きや段落・順序を表す言葉、説明や理由という観点で類型化して発表させた。児童は、友達の考えを聞いて自分の考えとの共通点や相違点、自分では気付かなかった点などに触れて考えを深めることができた。

以上のことから、違いについて一人一人に考えさせたり考えを交流させたりする手だてでは、二つの文章を比べて読み、場面や用途、目的などに応じた文章構成や表現の違い、表現の工夫を捉えさせる上で有効であったと考える。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 主体的に学習に取り組ませるためにはどのように単元を構成したらよいかを考えた。本単元では、第一次の段階で、二次では二つの文章を読み比べて説明の違いとそれぞれのよさを考える、三次ではランドセルについて書いた文章をもとにカード作りをするというゴールのイメージを持たせた。それにより、児童は二つの文章の違いや同じ点に気づき、目的に応じた文章構成や表現の違いについて理解することができた。そして、それを基に第三次でのカード作りにつなげることができた。
- (2) 授業のねらいにせまるためには、児童の考えをしっかりと見取り、それを意図的指名につなげることが有効であると考えた。児童は自分なりに違う点を見つけて短い文で付箋に書いており、机間指導で一人一人の考えを見取ることができた。中にはカードと本の違いを別々に具体で考えて項目として捉えることが難しい児童も見られたが、具体から項目という抽象へ意図的指名で発表させることにより、項目として捉えるということに気付かせることができた。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・ 交流場面での意図的指名のあり方とその後の再考のさせ方の工夫。
- ・ 主体的に学習に取り組ませるための、見通しと振り返りを意識した単元構成の工夫。

	カード	本
文の数	三つ	十
文の長さ	長い	短い
題名	ふろしきは、どんなぬの	ふろしきは、どんなぬの

【資料1 児童のワークシート】